



持続可能な嶺南地域の構築に 向けた取り組み

～小浜市上根来集落での
取り組みを通じて～

福井大学 地域創生推進本部
嶺南地域共創センター
山形 亮太

プレゼンテーションの構成

01 研究趣旨

02 嶺南地域の無住集落の把握

03 活用型の無住集落について

04 上根来地区での調査結果報告

05 上根来地区での取り組み

06 今後の活動について

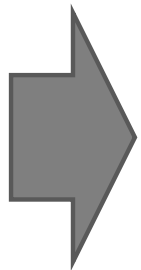
調査趣旨説明

目標

嶺南地域の文脈を損なうことなく、
小さくとも永く続く豊かな地域にする

そのためには…

- ・ 都市と農漁村のより一体的な地域づくり
- ・ 先を見据えた住民主導の撤退と再興の戦略づくり
- ・ 次世代への継承機会の確保



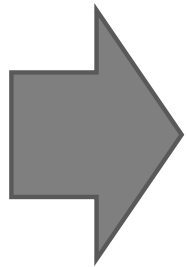
場所ごとに知見を得る必要
まずは課題先進地の無住集落

調査趣旨説明

本調査の目的

福井県嶺南地域における

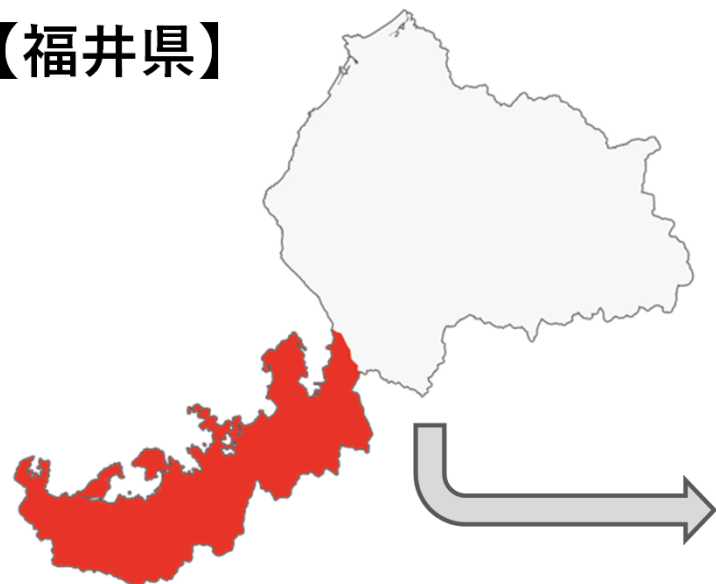
- ①無住集落の把握
- ②無住集落の持続性の評価



- ①無住集落の活用実態や分布を把握
- ②アンケートやインタビューから
現役世代の意向、子供世代の継承に対する
考え方などを把握

嶺南地域における無住集落の分布

【福井県】

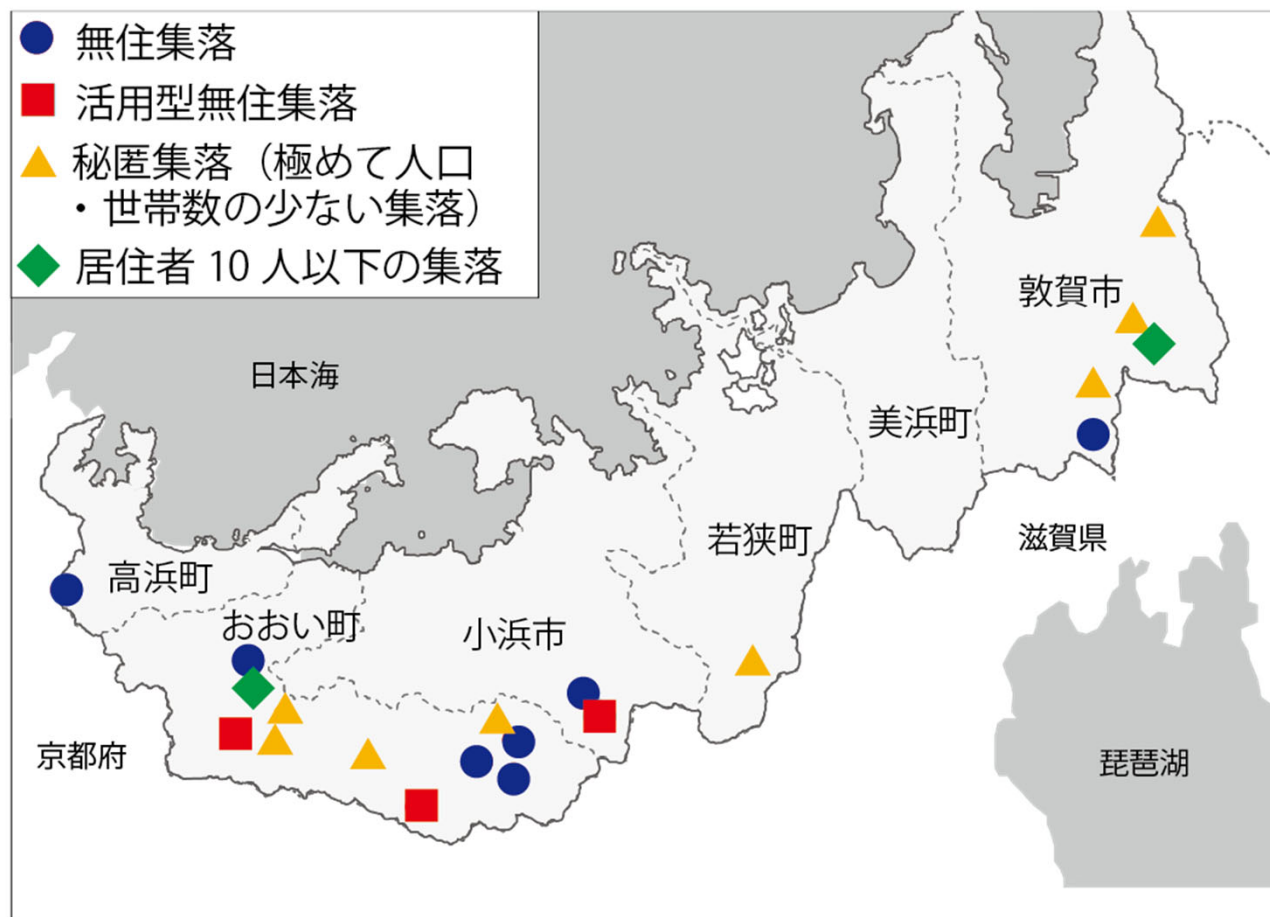


嶺南地域

2市4町

人口：128,325人 (17.3%)

面積：1,099km² (26.2%)

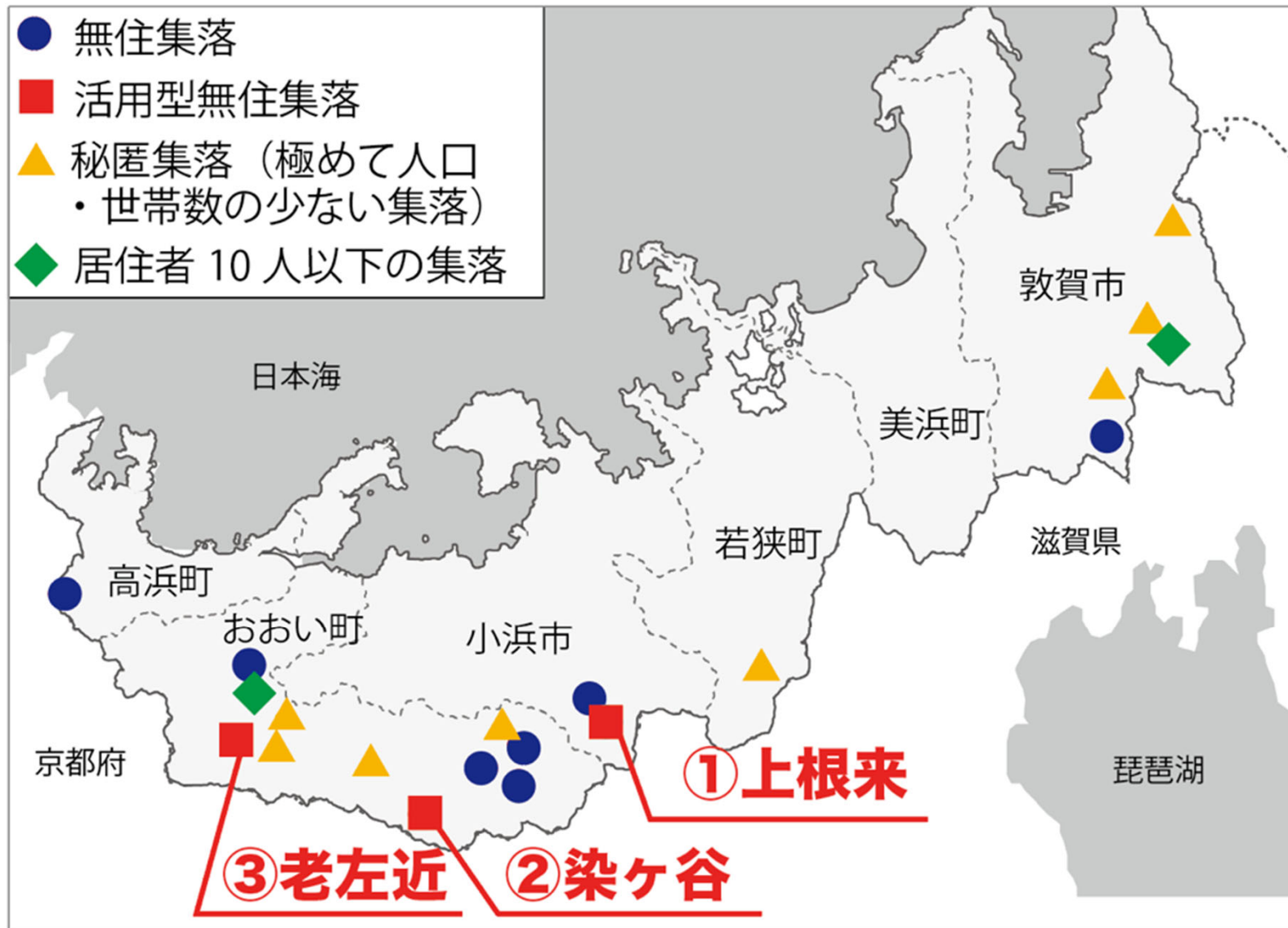


無住集落 **10箇所(24.4%)**

秘匿集落 **8箇所(16.3%)**

居住者10人以下 **2箇所(28.6%)**

研究対象地



嶺南地域の無住集落のうち

何らかの維持活用が行われている集落→3集落

上根来集落（小浜市）

最も古い**鯖街道**の針畑ルート沿いの「**無住集落**」
最盛期には300人以上が居住
元住民などが維持管理活動



染ヶ谷集落（おおい町）

鯖街道の周山街道ルート沿いの「無住集落」だった
キャンプ場

元住民の組合が経営



老左近集落（おおい町）

おおい町名田庄の最奥部に所在する最小の「無住集落」
2000年頃無住化

NPO法人が維持管理・活用



無住化後も維持・活用されている集落の活動状況

	主な活動の種類	活動主体	構成員	活動人数	活動開始時期	無住になった時期
①上根来 (小浜市)	道路・建物管理	任意住民組織	元住民のみ	3 ^{*1}	2012年頃	2013年
	宿泊業（古民家一棟貸）	NPO法人	集落外住民 (市内のみ)	2	2011年	
②染ヶ谷 (おおい町)	宿泊業 (キャンプ場 八ヶ峰家族旅行村・ 古民家一棟貸含む)	八ヶ峰家族 旅行村組合	元住民のみ	5 ^{*2}	1968年	1972年
③老左近 (おおい町)	イベント 宿泊業（古民家一棟貸）	NPO法人	集落外住民 (町外含む)	2~3	2004年	1999年

*1 中核的な人数。13名ほど所属しており、作業の必要人数に合わせて調整される。

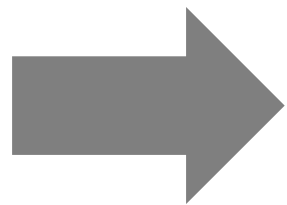
*2 日常的な維持管理を行う人数。繁忙期は親族総出で行う（人数は不明）

ヒアリング結果（8月～9月にかけて対面で実施）

	名称	性別	年齢	所属	属性	継続意向	継承意向	取り組みに関する意見
①上根来 (小浜市)	A氏	男	65	任意 住民 組織	元住民	○	×	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供世代は、上根来で生まれ育っておらず、自分たちのような動機はない。 ・ <u>時間とお金のかかることを子供たちにはさせられないので、最後の世代になると思われる。</u>
	B氏	男	65	NPO	集落外 (市内) 住民	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上根来がどうなるかを見届けたい。(活性化に拘らない) ・ 理想的には事業をきっかけに集落に人が戻ってきて欲しい。
	C氏	男	41			○	○	
②染ヶ谷 (おおい町)	D氏	男	67	八ヶ峰 家族 旅行 村 組合	元住民	○	×	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の収入に関係なく、故郷が朽ちていくのは見過ごせないので関わる。 ・ <u>事業収入は低く、子供世代が関わることは難しい。</u> ・ <u>今後事業譲渡が考えられるが、現行の元住民のみで運営されている場合に比べ、かなり難しくなる。</u>
	E氏	男	64			○	×	
③老左近 (おおい町)	F氏	男	66	NPO	集落外 (町内) 住民	○	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点以上の事業拡大は考えていない ・ 老左近で楽しめることを様々な人と考えていきたい。 ・ 地域を良くすることを目的に事業をするなら受け入れる。
	G氏	女	37	営利 会社 *1		△	○	

集落の共通の課題

- 全ての集落で60代前半以上が主力
近い将来、活動の維持が困難になる可能性大
- 現在の主力世代は継承について悲観的
- 子供世代とのコミュニケーションが不十分で、集落での活動への参加が見られない



子供世代の考え方は？

アンケートの構成について

上根来集落の元住民（15世帯）に郵送調査

対象者

定義

主な調査項目

親世代

現在集落活動に関わっている世代

- 回答者属性
- 集落の居住歴
- 現在の集落への関与度
- 子世代への継承状況 等

子世代

親世代の子供

- 回答者属性
- 親からの継承状況、意識
- 今後の意向 等

回答者の属性

回答世帯数	全体	割合
6	15	40.0%
5	15	33.3%

■ 居住地の特徴

- 親世代：上根来から近距離の団地住みが多い
- 子世代：親世代と近居もしくは同居が多い

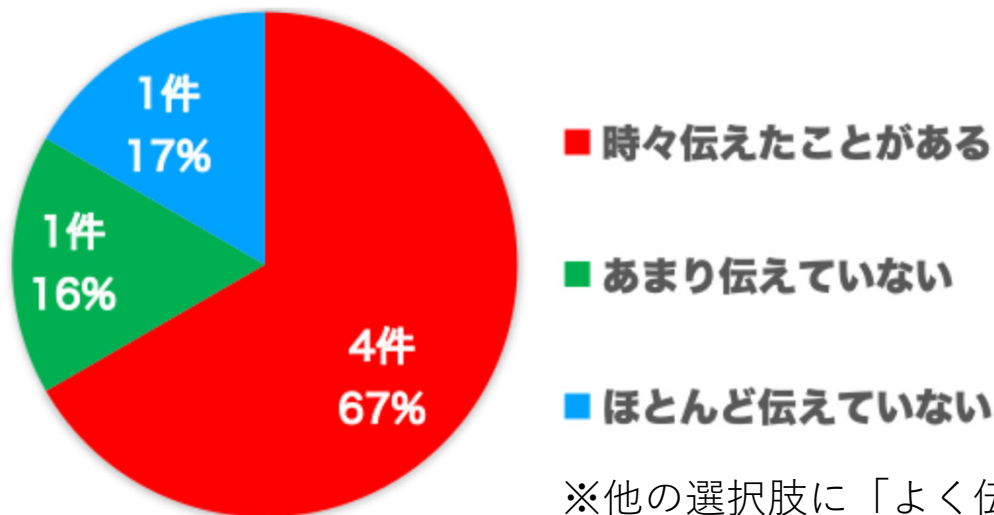
■ 職業・勤務地の特徴

- 親世代：建設業の自営業が多い
- 子世代：会社員で勤務地は小浜市内

継承について（アンケート結果）

親世代

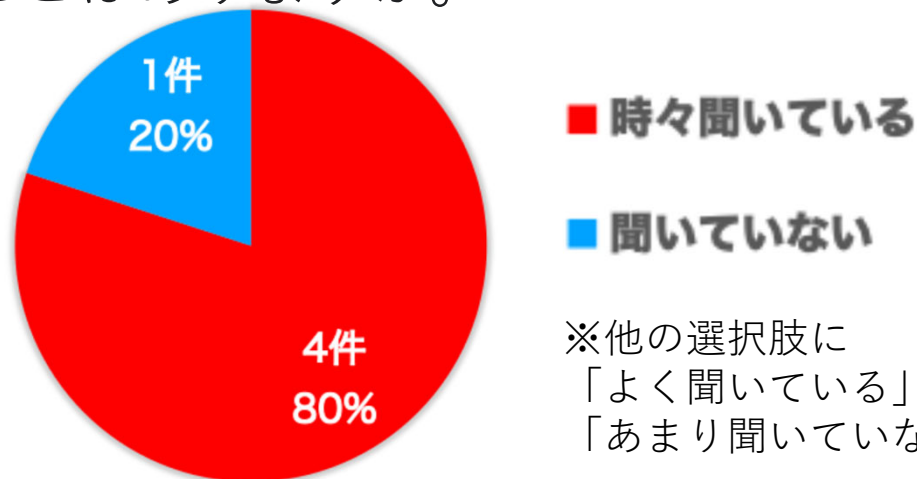
Q.上根来地区に関する思い出や歴史を伝えていますか。



※他の選択肢に「よく伝えている」

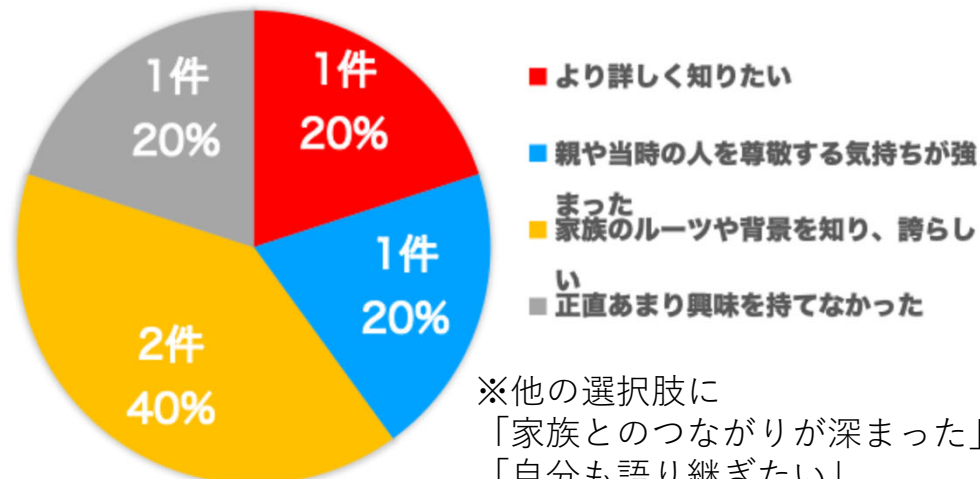
子世代

Q.集落に関する思い出や歴史を聞いたことはありますか。



※他の選択肢に「よく聞いている」「あまり聞いていない」

Q.集落に関する思い出や歴史を聞いてどのように感じましたか。

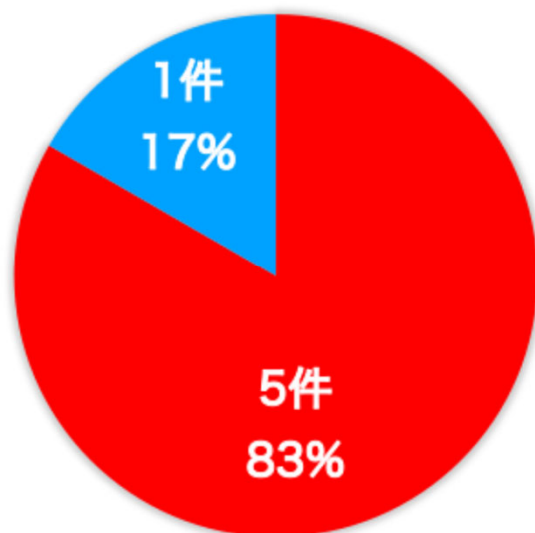


※他の選択肢に「家族とのつながりが深まった」「自分も語り継ぎたい」

継承について（アンケート結果）

親世代

Q.今後、子供世代が上根来地区と関わりを持つことをどのようにお考えですか。



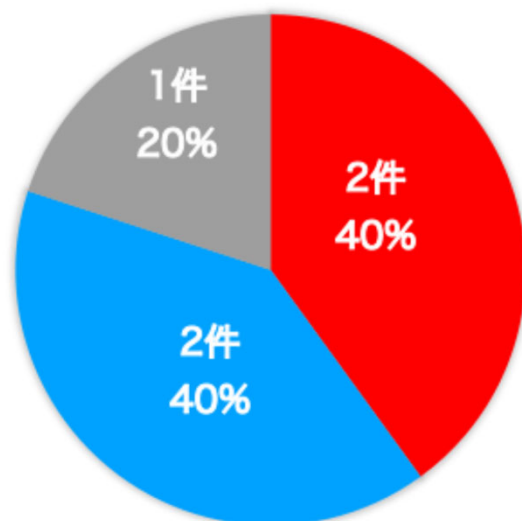
■ 関心があれば関わってほしい

■ わからない

※他の選択肢に「積極的に関わってほしい」「本人が関心がなければ関わらなくても良い」

子世代

Q.今後、集落との関わりをどの程度持ちたいと考えていますか。



■ 機会があれば関わりたい

■ あまり関わるつもりはない

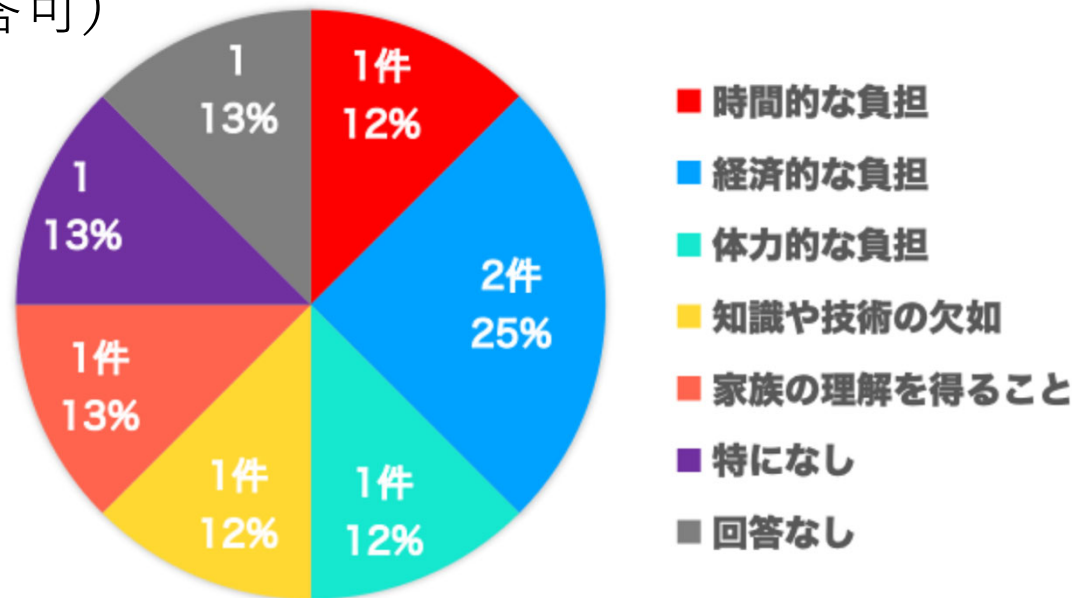
■ 既に活用中

※他の選択肢に「積極的に関わりたい」「関わるつもりはない」「わからない」

負担に感じている要素について（アンケート結果）

Q.集落やご自身が所有する土地・建物との関わりの上で負担に感じることは何ですか。（複数回答可）

親世代

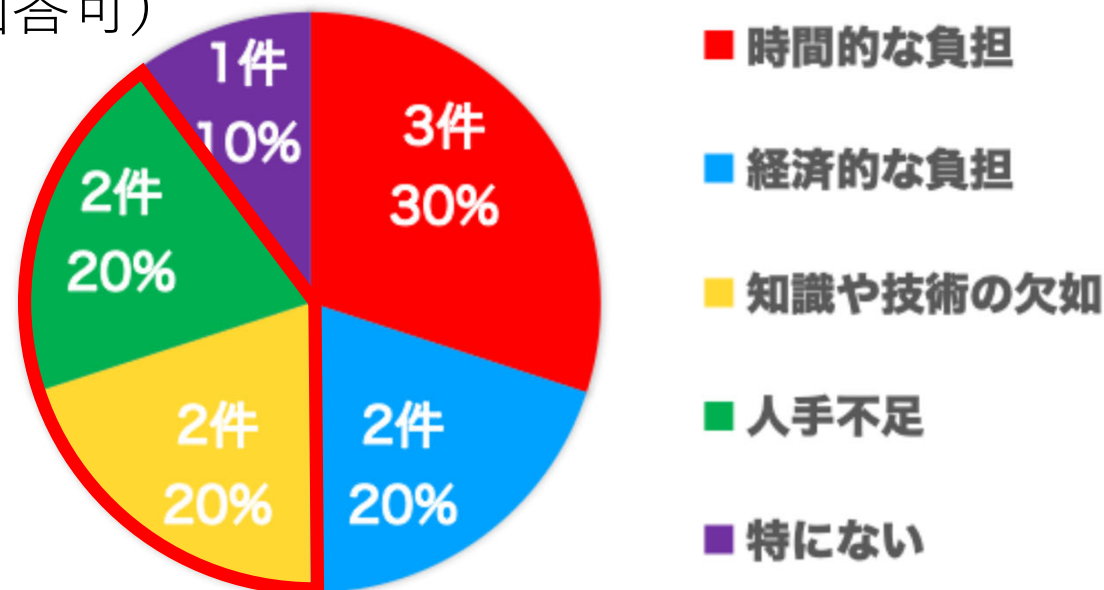


※他の選択肢に
「地区内の人間関係」
「人手不足」

「体力的な負担」は
自由記述を要約

Q.集落や今後所有が見込まれる土地・建物と関わりの上で負担に感じることは何ですか。（複数回答可）

子世代



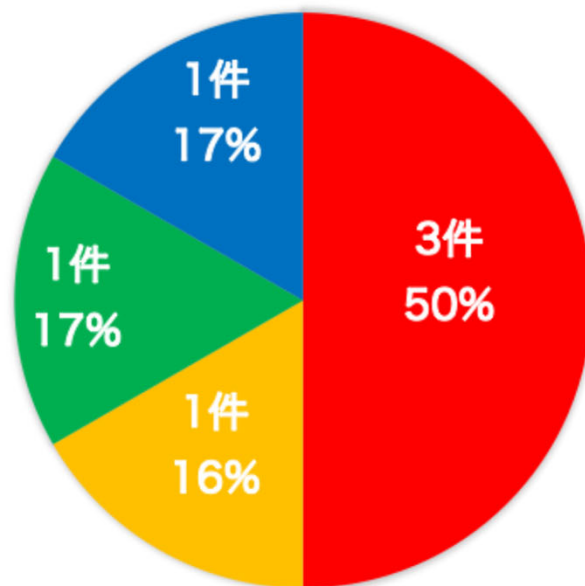
※他の選択肢に
「地区内の人間関係」
「家族の理解を得ること」

将来的な自然解決が
難しい部分

維持・利活用について（アンケート結果）

Q.現時点での所有している土地・建物の今後の意向を教えてください。

親世代



■ 現状維持

■ 伝統的民家に指定されており、可能な限り維持

■ 利活用できると良いが、難しいのであれば維持

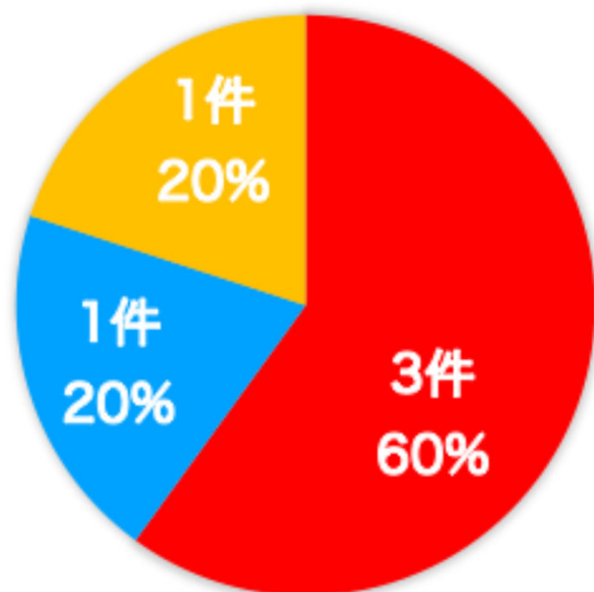
■ 現在既に活用中

※他の選択肢に「貸したい」「売却したい」「今後利活用したい」

本回答の現状維持以外は自由記述

Q.今後所有が見込まれる土地・建物の今後の意向を教えてください。

子世代



■ 現状維持

■ 思案中

■ 既に利活用中

※他の選択肢に「貸したい」「売却したい」「今後利活用したい」

本回答の現状維持以外は自由記述

まとめ

- 親→子へ活動内容の伝達頻度 「時々」
現時点で子の 積極的な関心・実際の活動参加なし
- 親・子とも 「現状維持」 だが負担の内容にギャップ
親世代→ 経済・体力の不足
子世代→ 知識・技術、人の不足
- 遠方の移住者（片道30分以上） → 関与なし
今後増加見込、日常の維持管理人口減

今後の展開

① マルチシナリオ策定支援（維持部分を決める）

→ 総労力の減少

② イベント等を通じた子供世代・外部人材への
継承機会の創造

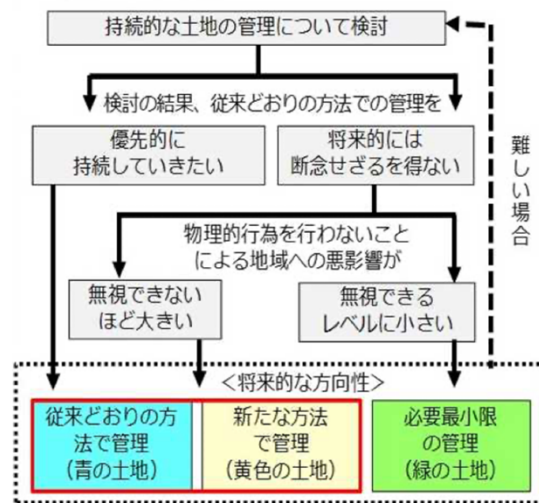
→ 将来関与人数、必要技術・知識の確保

行政と住民の中間機関（例：大学、NPO、一社）
による関与の可能性

今後の展開（マルチシナリオ策定支援）



〈考え方の流れ〉



青の土地

今後も持続的に使って行く土地を、地図上で青色に塗る。

黄色の土地

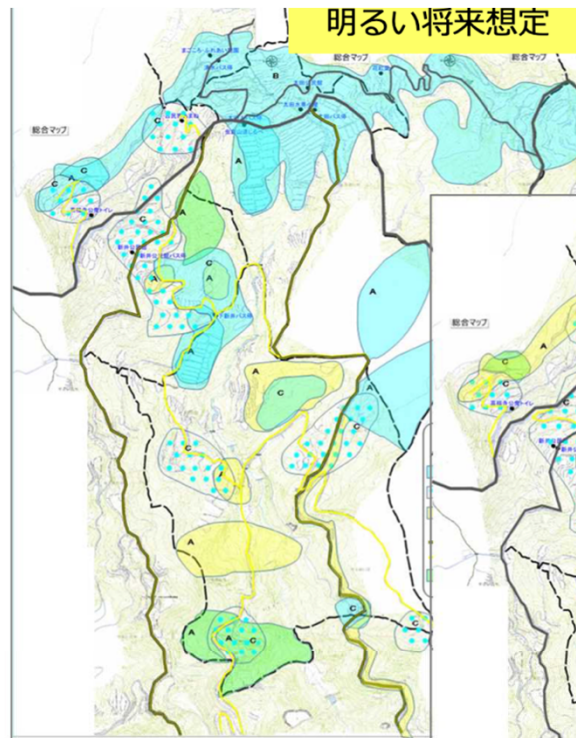
人手やコストの小さい新たな管理方法・利用方法を考える土地を、地図上で黄色に塗る。

緑の土地

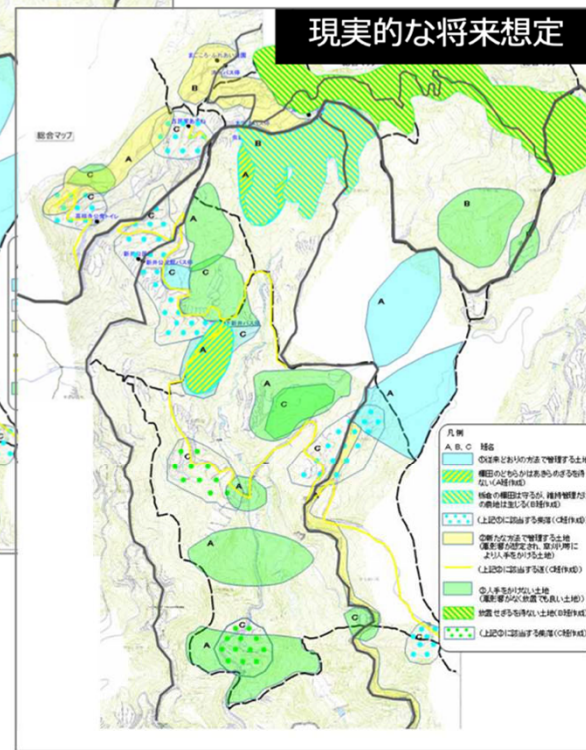
出来る限り人手をかけないこととする土地を、地図上で緑色に塗る。

明るい将来想定

〈2種類の地域管理構想図〉



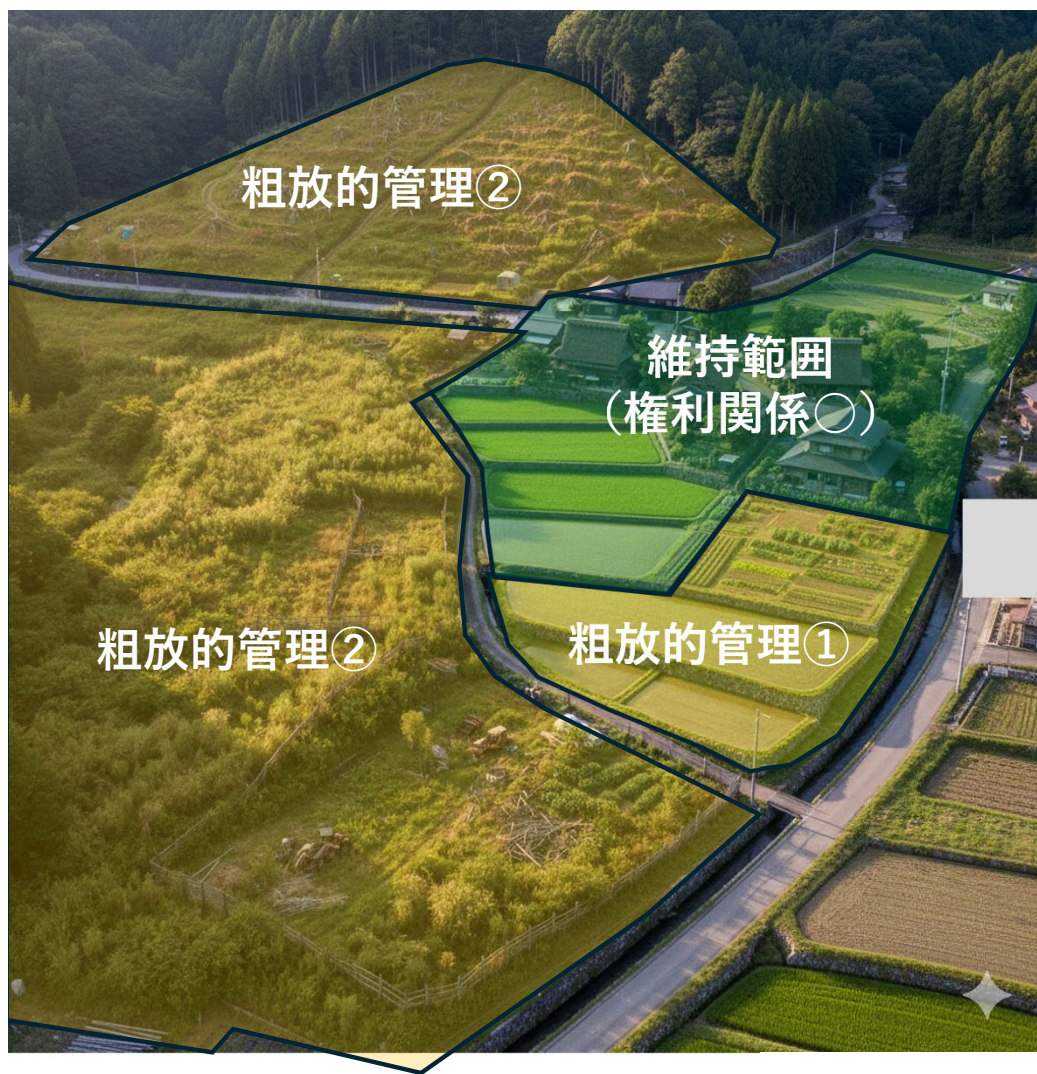
現実的な将来想定



(国土交通省報告書より)

今後の展開

マルチシナリオ作りによる計画的な維持管理戦略づくり



(Google Geminiで作成)

将来の状況に応じて、管理範囲・レベルを変えることもあり得る

今後の展開（技術・知識の確保機会としてのイベント）

実施済



第1回

上根来を想う会

上根来地区の元住民とその子供世代を対象に
上根来の過去・現在・未来を専門家とともに体験
上根来について考え、最後に少しだけ想いを共有しましょう

日時

2025年11月16日（日）
11:00～15:00

場所

鯖街道 御休処 「助太郎」
（福井県小浜市上根来9-20）

内容

現地視察＋昼食会＋講演＋意見交換
詳細は裏面をご覧ください。

申込

参加費無料

右の参加申込フォームから
お申し込みください。



申込フォーム



〔下記メールか電話からも申込頂けます。〕

「助太郎」地図



【お問い合わせ先】福井大学 地域創生推進本部 嶺南地域共創センター 特命助教 山形 亮太
tel : 0770-64-5340 email : ryo-y@u-fukui.ac.jp

-スケジュール-

1 11:00 上根来を見る（フィールドワーク）

■百里会（ひゃくりかい）（元住民組織）

現在も様々な取り組みをしている元住民組織の方々と共に上根来地区内を歩いて地区内の状況や取組を見学。



2 12:00 上根来を食す（昼食会）

■吉岡 翔太氏（MINSHUKU よしおかや）

若手料理人の全国大会でベスト4入りのフレンチシェフが織りなす上根来由来の食材を使用したプレミアムな食事会。



3 13:00 上根来を知る（講演）

■白木 達也氏（北海道大学 文学院 人間科学専攻 修士課程）

学部時代から上根来でのヒアリング調査などを行ってきた調査結果の報告。



■林 直樹氏（金沢大学 人間社会研究域地域創造学系 准教授）

縮小時代の農村戦略研究の第一人者。全国の無住集落の事例などの紹介。近著に「撤退と再興の農村計画」など。



4 14:00 上根来を考える（ワークショップ）

上根来について、思ったことや考えていることを共有
〔サポート係：学生（金沢大学＋福井大学）〕



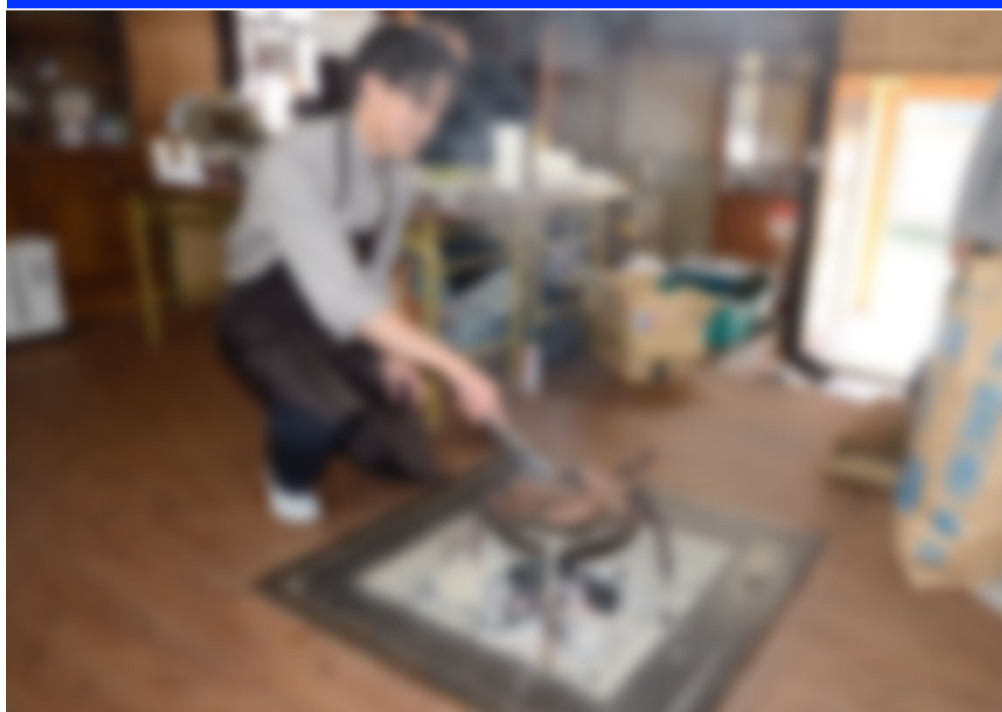
15:00 解散

主催：福井大学 地域創生推進本部 嶺南地域共創センター
共催：百里会 後援：NPO法人WACおばま、福井県里山里海湖研究所
協力：金沢大学 人間社会研究域 林直樹研究室、福井大学 工学部 建築・都市環境工学科 原田陽子研究室

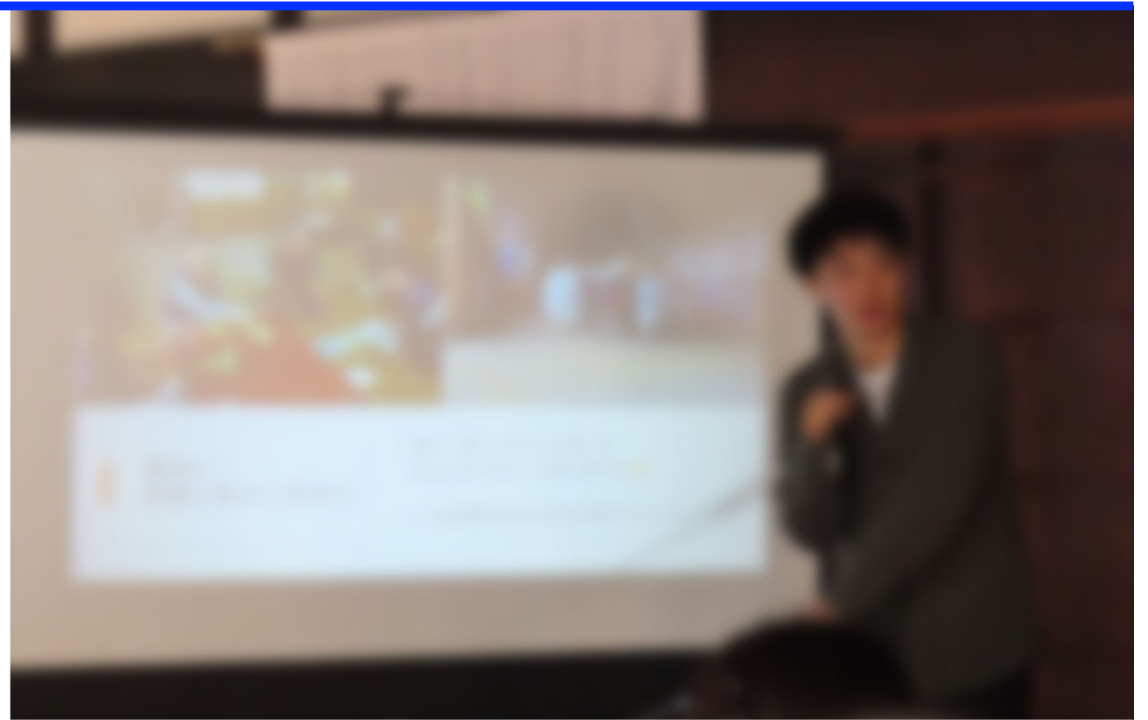
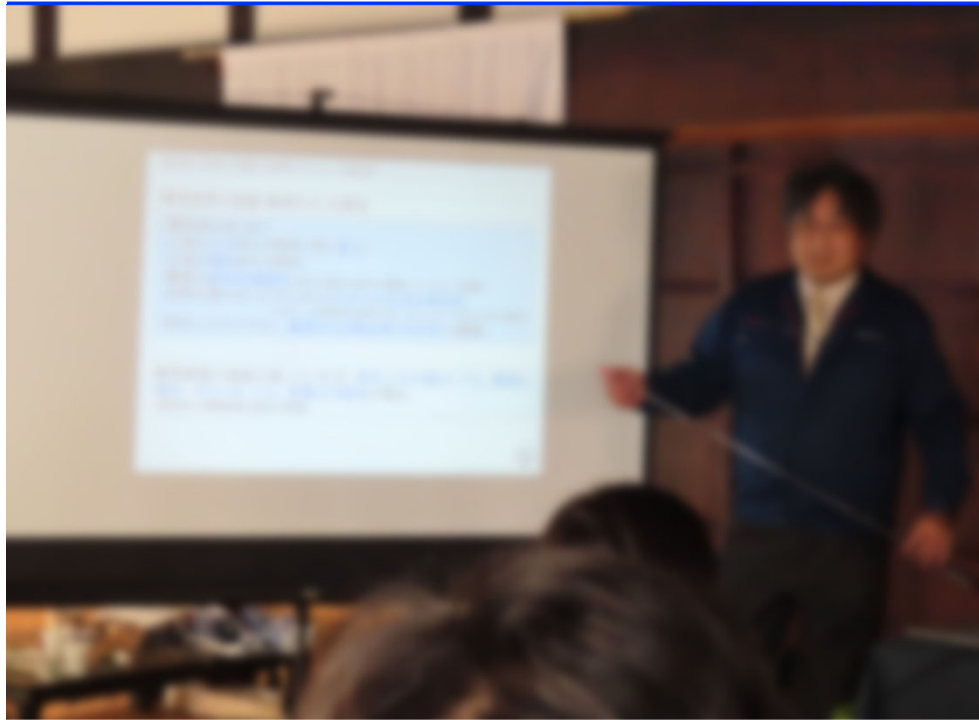
①フィールドワーク



②昼食会



③講演会



④ワークショップ



今後の展開（技術・知識の確保機会としてのイベント）

雪室 YUKIMURO

2025-2026 冬

嶺南唯一の雪室に
あなたの食品を
入れてみませんか？



4月には雪室食品を使った
一日CafeもOpen予定！

イメージ図

日時

雪室が完成次第（2月頃）

申し込みいただいた方には追ってご連絡いたします

場所

小浜市上根来旧畜舎

道中は除雪されていますが、スタッドレスタイヤ
を着用するなどの雪道対策は行ってください。

申込

参加費無料 >>>>>

右の参加申込フォームもしくは
下記メールか電話からも申込いただけます

「旧畜舎」地図



申込フォーム



今後の展開（技術・知識の確保機会としてのイベント）



ご清聴ありがとうございました